

調査の概要

【調査目的】

考え方や行動は「男性と女性でどう違うか」より、「個人と個人でどう違うか」が重要といわれる時代である。確かに男女平等社会を強く指向するようになって、一人ひとりの違いがより意味するところが大きくなった。

女性が強くなったか、男性が弱くなったかという視点は、古い男女観を引きずっているように思える。

とはいうものの、高校生の日常の行動は「男と女」をめぐってあり、それが思春期の特徴でもある。共通するものと相違するもの及びその理由を尋ねることにより、現状を精確に把握し、今後の在り方に貢献しようとするものである。

日本の女子中学生は、男子よりやたら元気な側面があり「愛の告白」は女子のするものという現実があるようだ。しかし、高校生になると俄然、様子が違って来る。中学生の愛の告白は、面白い遊びに過ぎないと思われるようである。高校生は男女とも軽々しく「愛」だの「好き」だと公言しなくなる。

男性と女性の関係ではなく、学校での諸活動、人間関係、人生観など個人としてどのように考え行動するかが大きなウエイトを持っているようである。

日常生活のさまざまな意識や行動では、男性と女性で大きな差があるというより、アンケートの結果は、数量的に男女間での差が少くない。その象徴的なものとして、「男らしい」「女らしい」の差の少ないことが挙げられる。

とはいうものの、「わがまま」「おしゃべり」は男子生徒も女子生徒も「女らしい」と考え、「乱暴」「不良っぽい」は「男らしい」特徴として捉えられている。しかし「責任感」や「はっきり主張する」では「女らしい」とみられている。

明らかに大勢は法の理念だけでなく、事実として、「男女別」でなく、「個人別」の社会に変わりつつある。これは男女共学の学校という場での現象ではあるだろうが、新しい社会が生まれつつあるといえることになるのだろうか。学校現場でみる女子生徒の言葉は、大きいだけでなく、「おい」「お前」「やれよ」など男言葉の世界である。

これらの現実の背後にどのような男意識や女意識があるのか、「ほんね」のところをみるために、深いレベルでの意識をみるように質問を工夫してきている。

本調査では、日本、アメリカ、中国、韓国でも、殆んど同じ質問を行った。その国の伝統文化や国の在るべき理念とその結果を知ることができるであろう。

【調査方法】

	日本	アメリカ	中国	韓国
実施時期	2003年9月～ 10月	2003年9月～ 10月	2003年9月～ 10月	2003年9月～ 10月
調査学校の数	12校	11校	14校	16校
調査地域	青森県、栃木県、 山梨県、東京都、 石川県、静岡県、 愛知県、大阪府、 兵庫県、島根県、 宮崎県、熊本県	Montana, Missouri, Nebraska, New York, North Carolina, Oklahoma, Miami,FL, Adkins,TX, Washington, Lino Lakes,MN	北京市、上海 市、黒竜江省密 山市とハルビン 市、西安市、武 漢市、四川省南 充市、広東省広 州市と深 市	ソウル、大 釜山、光州、 大田、夫 、 錦山、河南、 富川、麗州
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
サンプル数	1006票	1127票	1310票	1069票

【調査内容】

- 1) クラブ活動
- 2) クラスでの役職者
- 3) クラスのリーダーなど特色を持つ人
- 4) 学校で充実しているとき
- 5) 男性イメージ、女性イメージ
- 6) 強い生徒のイメージ
- 7) 男らしく・女らしくしなさいといわれるか
- 8) 男子が弱いと思うか・その理由
- 9) 愛の告白をめぐる経験
- 10) 結婚をめぐる伝統的価値観
- 11) 付き合いたい人・人間関係観
- 12) 友だちとの付き合い方
- 13) 電車の中での態度や親・教師に対する態度など
- 14) 将来・人生・社会についての価値観

【調査結果の概要】

本調査は高校生の男性・女性についての相互の意識をみようとしたものであり、共通するものと相違するもの、その理由について質問している。この結果は各国によって異なっていることが

多く、特に日本の女子生徒の意識は、かなり異色で、元気過ぎるといえそうである。

1．学校生活

高校生の学校での生活は、大きくいって勉強することと、友だちとの交流の二つにあるだろう。学校生活で最も充実しているときはどんなときかを尋ねた結果では、アメリカと中国では授業が高い比率を占めたが、日本と韓国では授業のウエイトが低い。

4カ国ともに高い充実感を持つのは、親しい友人と一緒にいるときであり、特に日本でこの傾向が強かった。

授業以外の活動ではスポーツや文化系のクラブ活動である。

2．クラスのリーダー

高校生にとっては、クラスのリーダーや人気者が誰かが関心の的である。冗談がうまい人物が各国で人気ナンバーワンであり、日本では「個性的」であること、中国では「自分の意見をはっきり言う人」であった。これはなかなか注目されることだろう。

3．男性・女性のイメージ

男性のイメージ、女性のイメージを尋ねた結果では、興味ある結果が生まれた。アメリカでは「意地の悪い」のは男のイメージであり、「冗談がうまい」のは各国とも男イメージとなった。「わがまま」「おしゃべり」は各国で女らしいイメージと受取られている。「乱暴な」も各国で男イメージで共通だった。「強い生徒」のイメージは、「勇気のある」「頼りになる」「リーダーシップのある」「正義感がある」「責任感が強い」ことが各国で支持されている。

4．男らしく女らしくの消滅

「男らしく」「女らしく」しなさいといわれるのは中国で多く、日本の女性に対してもいわれている。

男が弱くなったと思うのは、アメリカと中国で強く意識されている。

愛の告白を受けた者は、各国で6割前後となった。

5．結婚と仕事

結婚したら、女性は「家庭に専念」が中国で6割強、日本、アメリカ、韓国では1割に満たない。子供が生まれても「仕事を止めるべき」が日本と韓国では2割から3割、アメリカでは3割強、中国では9割弱となった。

結婚をめぐる古くからの伝統的な、「仕事より家庭」「女は家庭に」「育児に専念すべき」などは、否定的意見が多くみられる。

「仕事が良くできる男」「仕事を良くできる女」は、男性によっても女性によっても魅力を感じずという者が多い。これも新しい流れといえるようだ。

6．新しい人間像と人間関係

友だち付き合いや人間関係で注目されるのは、「個性的な人」「自分の意見をはっきり言う人」の評価が高い。これも新しい価値観の出現を思わせる。

人間関係について、「甘える」「犠牲になって相手に尽くす」「心を打ち明ける」「相手の考えていることに気を使う」などで、アメリカの肯定意見が高い。これだけを見るとアメリカの高校生の友人関係は濃密といえそうである。中国は互いに甘えること、互いの心を打ち明けることなどで、高く支持をした。この理由にはいろんなことが含まれているように思われる。

7．マナー

電車の中でのマナーでは日本の「良くないこととする」意見が多い。中国、韓国も日本と同じ傾向を示すが、アメリカでは例えば「電車の中で大声でしゃべること」を「悪いことではない」という者が、3割もある。

教師と親に反抗することは、各国の多数意見だが、独り日本では「悪いことではない」とする傾向がみられる。教師と親の権威について、改めて国民が話し合ってみるべきと思われる。

8．人生観など

最後に人生観・社会観・自己像では、日本の生徒が、自分自身に満足していないことが挙げられる。